

研究指導計画

【研究指導の流れ】

博士前期課程における、修士学位取得までの研究指導の流れは、以下のとおりです。

年次	時期	内容
1 年次	4 月	研究科のガイダンスにおいて、研究倫理についての指導を受け、研究科委員長から大学院の学びの概要、各専攻科において今後の研究計画についての指導を受ける。 教育研究指導計画書を提出する。指導教員が担当する科目を履修するとともに、適切な授業科目を指導教員の助言を受けて決定し、履修する。
	9 月	個別の研究テーマに基づく研究の進捗状況について報告し、指導教員の確認を受ける。
	1 月～2 月	2 年次に向けての研究について指導教員の面接指導を受け、研究科委員会に対して「研究指導計画書」を作成する。
2 年次	4 月	1 年次に引き続き、指導教員が担当する科目を履修し、指導教員から研究計画について指導を受ける。「研究指導計画書」を提出する。
	5 月	各専攻主催による修士論文構想発表会を行う。
	10 月～11 月	各専攻科主催による修士論文中間報告会で発表する。
	11 月	修士論文題目決定届を提出する。
	12 月～1 月	修士論文の提出
	2 月	審査委員による口頭試問を含む最終試験を実施する。その結果に基づき研究科委員会が合否を決定する。
	3 月	学位の授与

(6) 研究指導計画

【研究指導の流れ】

博士後期課程における、博士学位取得までの研究指導の流れは、以下のとおりです。

年次	時期	内容
1 年次	4 月	指導教員による個別面談を行ったうえで 1 年次研究計画を決定する。 また、指導教員が担当する科目を履修する。
	9 月	個別の研究テーマに基づく研究の進捗状況について報告し、指導教員の確認を受ける。
	10 月～11 月	各専攻主催による博士論文構想発表会に参加する。
	2 月	2 年次に向けての研究について、指導教員の面接指導を受け、研究科委員会に対して、「後期課程研究報告書」を提出する。
2 年次	4 月	1 年次に引き続き、指導教員が担当する科目を履修し、指導教員から研究指導計画に基づき指導を受ける。
	9 月	個別の研究テーマに基づく研究の進捗状況について報告し、指導教員の確認を受ける。
	10 月～11 月	各専攻主催による博士論文構想発表会で発表する。
	2 月	3 年次に向けての研究について、指導教員の面接指導を受け、研究科委員会に対して、「後期課程研究報告書」を提出する。
3 年次	4 月	指導教員から研究指導計画に基づき指導を受ける。 また、指導教員が担当する科目を履修する。
	10 月	指導教員に博士論文を提出する。 研究科委員会主催による研究報告会で発表する。
	11 月	予備審査の手続きに入る
	12 月	公開説明会の開催、学位申請の手続き 研究科委員会は学位申請書の受理の可否を審議する。
	1 月	本審査、最終試験を実施する。
	2 月	その結果に基づき研究科委員会は学位授与の可否を審議決定する。
	3 月	学位の授与

■論文審査ルーブリック（文学研究科英語英米文学専攻博士前期課程）

- (1) ルーブリックは「評価基準表」とも呼ばれるもので、本研究科では、修士論文の指導と評価および修士課程における学習成果の確認のために使用します。
- (2) 表をよく見て「修士論文がどのような観点で評価されるのか」を提出前に理解し、評価基準と照らして自身の論文を点検し、さらに精度や質を向上するために使用してください。

文学研究科英語英米文学専攻博士前期課程の学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）

【文学研究科博士前期課程共通（文学・社会学）】		
・専門分野において高度な研究を行う能力を修得している。（DP1）		
・専門分野における広く深い知識と正確な判断力を修得している。（DP2）		
【英語英米文学専攻博士前期課程（文学）】		
・英語英米文学専攻の各分野における研究能力と高度な専門性を必要とされる職業を担うための優れた能力を修得している。（DP3）		

論文審査基準 (評価の観点)	学位授与方針との対応関係			レベル3 (適切)	レベル2 (一部に修正・加筆が必要な状態)	レベル1 (不適切)
	DP1	DP2	DP3			
1 章立て等論文の体裁は整っており、執筆要領(注・文献も含めて)に適合しているか	○			研究科が示す「文学研究科修士論文内規」に準拠し、体裁の整った論文となっている。	体裁が整っていない箇所が一部見られるため、再度「文学研究科修士論文内規」を参照し、修正が必要な状態。	「文学研究科修士論文内規」と大幅に異なる体裁となっており、抜本的な見直しが必要な状態。
2 先行研究を的確に踏まえているか	○	○	○	当該分野の代表的な先行研究を把握した上で、先行研究が抱える重要な問題を正確に指摘し、説得的に論旨を展開している。	当該分野の代表的な先行研究を十分に把握できていない。または、先行研究をサーベイしているものの、それらが抱える問題を正確に指摘できていないため、関連性が不明である。	先行研究の把握、先行研究が抱える重要な問題の指摘の双方ともに不十分であり、先行研究との関係が不明である。
3 研究目的は明確であるか	○		○	論文の主要目的が明確に述べられている。	論文の目的を的確に表現していないため、修正・見直しが必要な段階に留まっている。	当該分野の研究として位置づけが不明であり、論文の目的や内容が的確に表現されていない。
4 専攻や専門の理念との関連付けは明確であるか	○	○	○	当該分野（専攻・専門）の理念との関連が記述されており、論文が当該分野の研究または教育上の発展に寄与するものとして評価することができる。	当該分野（専攻・専門）の理念との関連が記述されてはいるが、査読者に認められる水準に達していないため、理念との関連があると言い切れない状態に留まっている。	当該分野（専攻・専門）の理念との関連が記述されていないため、提出する論文と当該分野（専攻・専門）の理念との関連に関する記述を追記されたい。
5 研究目的に照らして研究方法は適切であるか	○	○	○	研究目的、研究課題、研究対象等に対してふさわしい研究の方法がとられており、問題と解決の枠組みとして適切であり、学問的批判に対して耐えうるものであるといえる。	研究目的、研究課題、研究対象等に対して、当該論文が採択する研究方法よりふさわしい別の方法があり、研究方法の再考または深化が求められる状態。	研究の目的・課題・対象等に対してふさわしい研究方法が選択されていない。
6 使用されている概念・用語は適切であるか	○	○	○	使用されている概念・用語は適切である。	使用する概念・用語に不明な点があるため、注や引用を明示すべき箇所が見られる。	使用されている概念・用語において、論文作成者独自の解釈が見られるため、再度、先行研究等の文献にて確認が必要。
7 研究の方法・分析が適切で、結果は明確であるか	○	○	○	研究結果から展開される分析・考察が、研究結果と整合的かつ論理的に展開されており、有益な結論を導出している。	研究結果に基づく分析・考察が述べられているが、研究結果を超越した考察であったり、論理的に整合的でないなど、研究結果との関連性が不明な状態。	研究結果を踏まえた分析・考察が述べられていない。あるいは、研究結果から論理的に導き出された考察とはいえない。
8 論理の展開には一貫性があるか	○		○	論文の主要命題（the central thesis）が明確に提示されており、論証したり、証拠をあげるなどして、問題意識から考察・結論に至るまで論理として整合的に展開されている。	論文の主要命題（the central thesis）が明確に提示されていないか、提示されているものの論理に整合的でない部分が一部見られる状態。	論文の主要命題（the central thesis）が明確に提示されていない。または、論理に整合的でない部分が散見される状態。
9 考察及び結論には新しい知見が含まれているか	○		○	研究結果から有益な考察が展開されており、先行研究が示す知見と比較したとき、独創的なものであると認められる。	結論に基づく考察が述べられているが、先行研究の知見と比較したとき、必ずしも独創的とはいえない。	研究結果を踏まえた考察が述べられていない。あるいは、研究結果から論理的に導き出された考察とはいえない。
10 表題は内容を適切に表現しているか	○			研究テーマ（題目）は、論文の内容一致しており、研究内容をイメージできる題目となっている。	研究テーマ（題目）から論文の内容がイメージしにくい状態であるため、題目に主要な鍵概念を含めるなどして、両者を一致させる必要がある。	研究テーマ（題目）と論文内容が一致していないため、直ちに修正が必要である。
11 要旨の内容は適切であるか	○			論文の要旨が基本要件を満たしており、規定された範囲内で論文の全体像が端的に表現されている。	要旨が基本要件を満たしていない。または、基本要件は満たしているものの、論文の全体像が端的に表現されていない。	基本要件、内容ともに不十分なため、抜本的な修正ないし書き直しが必要。
12 省略語・単位・数値等は正確に表記されているか	○			省略語・単位・数値等は適切に表現されている。		省略語・単位・数値等に不明な点があるため、注の挿入や引用の明示など、改善すべき箇所がある。
13 文法は正確で文章は適切に表現されているか	○			論文としての文章や文章表現が適切であり、推敲された上で洗練された文章となっている。	文法上は誤りではないが、自身の主張や論理展開をより説得的にするために、表現を見直すべき箇所が見られる。	一部、論文表現として適切でない箇所がみられるため、再度の校正作業を必要とする状態。
14 図表の体裁（タイトル・単位・形式）は整っているか	○			図、表の体裁（タイトル、単位、形式）が適切であり、論文全体を通じて統一されている。	図、表の体裁（タイトル、単位、形式）が統一されておらず、一部不適切な箇所が見られる。	図、表の体裁（タイトル、単位、形式）が適切でないため、「文学研究科修士論文内規」を熟読した上で修正が必要。
15 図表は本文の説明と適合しているか	○			図、表は本文の説明と適合しており、図、表が論理の展開に有益なものとして提示されている。	図、表と本文の説明が一致していない箇所がみられるため、本文の説明に合う図、表を提示するか、または本文の説明（図、表が示すデータの解釈等）を変更する必要がある。	図、表が本文の説明と一致していないため、どのような目的・意図をもって示された図、表なのか評価できない。
16 研究倫理上の問題はないか	○	○		研究対象者となる個人・組織等の匿名化や個人情報、引用や著作権の取り扱いが適切であり、研究倫理上の問題がない。	左記のいずれかにおいて、追加の記載が必要な箇所が見られる。	倫理上問題となる可能性があるため、ただちに指導教官のチェックを受ける必要がある。

■論文審査ルーブリック（文学研究科社会学専攻博士前期課程）

- (1) ルーブリックは「評価基準表」とも呼ばれるもので、本研究科では、修士論文の指導と評価および修士課程における学習成果の確認のために使用します。
- (2) 表をよく見て「修士論文がどのような観点で評価されるのか」を提出前に理解し、評価基準と照らして自身の論文を点検し、さらに精度や質を向上するために使用してください。

文学研究科社会学専攻博士前期課程の学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）

【文学研究科博士前期課程共通（文学・社会学）】	
・専門分野において高度な研究を行う能力を修得している。（DP 1）	
・専門分野における広く深い知識と正確な判断力を修得している。（DP 2）	
【社会学専攻博士前期課程（社会学）】	
・文献の精読や調査の実施等に関わる社会学の高度な知識と技術及び産業・行政・福祉・教育等の諸分野における専門知識を修得し、これらを活用・運用することで、主体的に研究活動を行う能力を修得している。（DP 3）	
・それぞれの分野の中核を担う専門的職業人として社会に貢献できる能力を修得している。（DP 4）	

論文審査基準 (評価の観点)	学位授与方針との対応関係				レベル3 (適切)	レベル2 (一部に修正・加筆が必要な状態)	レベル1 (不適切)
	DP 1	DP 2	DP 3	DP 4			
1 章立て等論文の体裁は整っており、執筆要領(注・文献も含めて)に適合しているか	○				研究科が示す「文学研究科修士論文内規」に準拠し、体裁の整った論文となっている。	体裁が整っていない箇所が一部見られるため、再度「文学研究科修士論文内規」を参照し、修正が必要な状態。	「文学研究科修士論文内規」と大幅に異なる体裁となっており、抜本的な見直しが必要な状態。
2 先行研究を的確に踏まえているか	○	○	○		当該分野の代表的な先行研究を把握した上で、先行研究が抱える重要な問題を正確に指摘し、説得的に論旨を展開している。	当該分野の代表的な先行研究を十分に把握できていない。または、先行研究をサーベイしているものの、それらが抱える問題を正確に指摘できていないため、関連性が不明である。	先行研究の把握、先行研究が抱える重要な問題の指摘の双方ともに不十分であり、先行研究との関係が不明である。
3 研究目的は明確であるか	○		○	○	論文の主要目的が明確に述べられている。	論文の目的を的確に表現していないため、修正・見直しが必要な段階に留まっている。	当該分野の研究として位置づけが不明であり、論文の目的や内容が的確に表現されていない。
4 専攻や専門の理念との関連付けは明確であるか	○	○		○	当該分野（専攻・専門）の理念との関連が記述されており、論文が当該分野の研究または教育上の発展に寄与するものとして評価することができる。	当該分野（専攻・専門）の理念との関連が記述されてはいるが、査読者に認められる水準に達していないため、理念との関連があると言い切れない状態に留まっている。	当該分野（専攻・専門）の理念との関連が記述されていないため、提出する論文と当該分野（専攻・専門）の理念との関連に関する記述を追記されたい。
5 研究目的に照らして研究方法は適切であるか	○	○	○		研究目的、研究課題、研究対象等に対してふさわしい研究の方法がとられており、問題と解決の枠組みとして適切であり、学問的批判に対して耐えうるものであるといえる。	研究目的、研究課題、研究対象等に対して、当該論文が採択する研究方法よりふさわしい別の方法があり、研究方法の再考または深化が求められる状態。	研究の目的・課題・対象等に対してふさわしい研究方法が選択されていない。
6 使用されている概念・用語は適切であるか	○	○	○		使用されている概念・用語は適切である。	使用する概念・用語に不明な点があるため、注や引用を明示すべき箇所が見られる。	使用されている概念・用語において、論文作成者独自の解釈が見られるため、再度、先行研究等の文献にて確認が必要。
7 研究の方法・分析が適切で、結果は明確であるか	○	○	○		研究結果から展開される分析・考察が、研究結果と整合的かつ論理的に展開されており、有益な結論を導出している。	研究結果に基づく分析・考察が述べられているが、研究結果を超越した考察であったり、論理的に整合的でないなど、研究結果との関連性が不明な状態。	研究結果を踏まえた分析・考察が述べられていない。あるいは、研究結果から論理的に導き出された考察とはいえない。
8 論理の展開には一貫性があるか	○		○		論文の主要命題（the central thesis）が明確に提示されており、論証したり、証拠をあげるなどして、問題意識から考察・結論に至るまで論理として整合的に展開されている。	論文の主要命題（the central thesis）が明確に提示されていないか、提示されているものの論理に整合的でない部分が一部見られる状態。	論文の主要命題（the central thesis）が明確に提示されていない。または、論理に整合的でない部分が散見される状態。
9 考察及び結論には新しい知見が含まれているか	○			○	研究結果から有益な考察が展開されており、先行研究が示す知見と比較したとき、独創的なものであると認められる。	結論に基づく考察が述べられているが、先行研究の知見と比較したとき、必ずしも独創的とはいえない。	研究結果を踏まえた考察が述べられていない。あるいは、研究結果から論理的に導き出された考察とはいえない。
10 表題は内容を適切に表現しているか	○				研究テーマ(題目)は、論文の内容一致しており、研究内容をイメージできる題目となっている。	研究テーマ(題目)から論文の内容がイメージしにくい状態であるため、題目に主要な鍵概念を含めるなどして、両者を一致させる必要がある。	研究テーマ(題目)と論文内容が一致していないため、直ちに修正が必要である。
11 要旨の内容は適切であるか	○				論文の要旨が基本要件を満たしており、規定された範囲内で論文の全体像が端的に表現されている。	要旨が基本要件を満たしていない。または、基本要件は満たしているものの、論文の全体像が端的に表現されていない。	基本要件、内容ともに不十分なため、抜本的な修正ないし書き直しが必要。
12 省略語・単位・数値等は正確に表記されているか	○				省略語・単位・数値等は適切に表現されている。		省略語・単位・数値等に不明な点があるため、注の挿入や引用の明示など、改善すべき箇所がある。
13 文法は正確で文章は適切に表現されているか	○				論文としての文章や文章表現が適切であり、推敲された上で洗練された文章となっている。		一部、論文表現として適切でない箇所がみられるため、再度の校正作業を必要とする状態。
14 図表の体裁（タイトル・単位・形式）は整っているか	○				図、表の体裁（タイトル、単位、形式）が適切であり、論文全体を通じて統一されている。	図、表の体裁（タイトル、単位、形式）が統一されておらず、一部不適切な箇所が見られる。	図、表の体裁（タイトル、単位、形式）が適切でないため、「文学研究科修士論文内規」を熟読した上で修正が必要。
15 図表は本文の説明と適合しているか	○				図、表は本文の説明と適合しており、図、表が論理の展開に有益なものとして提示されている。	図、表と本文の説明が一致していない箇所がみられるため、本文の説明に合う図、表を提示するか、または本文の説明(図、表が示すデータの解釈等)を変更する必要がある。	図、表が本文の説明と一致していないため、どのような目的・意図をもって示された図、表なのか評価できない。
16 研究倫理上の問題はないか	○	○		○	研究対象者となる個人・組織等の匿名化や個人情報、引用や著作権の取り扱いが適切であり、研究倫理上の問題がない。	左記のいずれかにおいて、追加の記載が必要な箇所が見られる。	倫理上問題となる可能性があるため、ただちに指導教官のチェックを受ける必要がある。

■論文審査ルーブリック（文学研究科比較日本文化専攻博士前期課程）

- (1) ルーブリックは「評価基準表」とも呼ばれるもので、本研究科では、修士論文の指導と評価および修士課程における学習成果の確認のために使用します。
- (2) 表をよく見て「修士論文がどのような観点で評価されるのか」を提出前に理解し、評価基準と照らして自身の論文を点検し、さらに精度や質を向上するために使用してください。

文学研究科比較日本文化専攻博士前期課程の学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）

【文学研究科博士前期課程共通（文学・社会学）】		
・専門分野において高度な研究を行う能力を修得している。（DP1）		
・専門分野における広く深い知識と正確な判断力を修得している。（DP2）		
【比較日本文化専攻博士前期課程（文学）】		
・文化（文学）、歴史、思想の学問分野を基調としつつ、日本を基盤とする東アジア・欧米との比較研究のあり方を横断的に学び、より高度な広い見識を身に付けている。（DP3）		

論文審査基準 （評価の観点）	学位授与方針との対応関係			レベル3 （適切）	レベル2 （一部に修正・加筆が必要な状態）	レベル1 （不適切）
	DP1	DP2	DP3			
1 章立て等論文の体裁は整っており、執筆要領（注・文献も含めて）に適合しているか	○			研究科が示す「文学研究科修士論文内規」に準拠し、体裁の整った論文となっている。	体裁が整っていない箇所が一部見られるため、再度「文学研究科修士論文内規」を参照し、修正が必要な状態。	「文学研究科修士論文内規」と大幅に異なる体裁となっており、抜本的な見直しが必要な状態。
2 先行研究を的確に踏まえているか	○	○	○	当該分野の代表的な先行研究を把握した上で、先行研究が抱える重要な問題を正確に指摘し、説得的に論旨を展開している。	当該分野の代表的な先行研究を十分に把握できていない。または、先行研究をサーベイしているものの、それらが抱える問題を正確に指摘できていないため、関連性が不明である。	先行研究の把握、先行研究が抱える重要な問題の指摘の双方ともに不十分であり、先行研究との関係が不明である。
3 研究目的は明確であるか	○		○	論文の主要目的が明確に述べられている。	論文の目的を的確に表現していないため、修正・見直しが必要な段階に留まっている。	当該分野の研究として位置づけが不明であり、論文の目的や内容が的確に表現されていない。
4 専攻や専門の理念との関連付けは明確であるか	○	○	○	当該分野（専攻・専門）の理念との関連が記述されており、論文が当該分野の研究または教育上の発展に寄与するものとして評価することができる。	当該分野（専攻・専門）の理念との関連が記述されてはいるが、査読者に認められる水準に達していないため、理念との関連があると言い切れない状態に留まっている。	当該分野（専攻・専門）の理念との関連が記述されていないため、提出する論文と当該分野（専攻・専門）の理念との関連に関する記述を追記されたい。
5 研究目的に照らして研究方法は適切であるか	○	○	○	研究目的、研究課題、研究対象等に対してふさわしい研究の方法がとられており、問題と解決の枠組みとして適切であり、学問的批判に対して耐えうるものであるといえる。	研究目的、研究課題、研究対象等に対して、当該論文が採択する研究方法よりふさわしい別の方法があり、研究方法の再考または深化が求められる状態。	研究の目的・課題・対象等に対してふさわしい研究方法が選択されていない。
6 使用されている概念・用語は適切であるか	○	○	○	使用されている概念・用語は適切である。	使用する概念・用語に不明な点があるため、注や引用を明示すべき箇所が見られる。	使用されている概念・用語において、論文作成者独自の解釈が見られるため、再度、先行研究等の文献にて確認が必要。
7 研究の方法・分析が適切で、結果は明確であるか	○	○	○	研究結果から展開される分析・考察が、研究結果と整合的かつ論理的に展開されており、有益な結論を導出している。	研究結果に基づく分析・考察が述べられているが、研究結果を超越した考察であったり、論理的に整合的でないなど、研究結果との関連性が不明な状態。	研究結果を踏まえた分析・考察が述べられていない。あるいは、研究結果から論理的に導き出された考察とはいえない。
8 論理の展開には一貫性があるか	○		○	論文の主要命題（the central thesis）が明確に提示されており、論証したり、証拠をあげるなどして、問題意識から考察・結論に至るまで論理として整合的に展開されている。	論文の主要命題（the central thesis）が明確に提示されていないか、提示されているものの論理に整合的でない部分が一部見られる状態。	論文の主要命題（the central thesis）が明確に提示されていない。または、論理に整合的でない部分が散見される状態。
9 考察及び結論には新しい知見が含まれているか	○		○	研究結果から有益な考察が展開されており、先行研究が示す知見と比較したとき、独創的なものであると認められる。	結論に基づく考察が述べられているが、先行研究の知見と比較したとき、必ずしも独創的とはいえない。	研究結果を踏まえた考察が述べられていない。あるいは、研究結果から論理的に導き出された考察とはいえない。
10 表題は内容を適切に表現しているか	○			研究テーマ（題目）は、論文の内容一致しており、研究内容をイメージできる題目となっている。	研究テーマ（題目）から論文の内容がイメージしにくい状態であるため、題目に主要な鍵概念を含めるなどして、両者を一致させる必要がある。	研究テーマ（題目）と論文内容が一致していないため、直ちに修正が必要である。
11 要旨の内容は適切であるか	○			論文の要旨が基本要件を満たしており、規定された範囲内で論文の全体像が端的に表現されている。	要旨が基本要件を満たしていない。または、基本要件は満たしているものの、論文の全体像が端的に表現されていない。	基本要件、内容ともに不十分なため、抜本的な修正ないし書き直しが必要。
12 省略語・単位・数値等は正確に表記されているか	○			省略語・単位・数値等は適切に表現されている。		省略語・単位・数値等に不明な点があるため、注の挿入や引用の明示など、改善すべき箇所がある。
13 文法は正確で文章は適切に表現されているか	○			論文としての文章や文章表現が適切であり、推敲された上で洗練された文章となっている。	文法上は誤りではないが、自身の主張や論理展開をより説得的にするために、表現を見直すべき箇所が見られる。	一部、論文表現として適切でない箇所がみられるため、再度の校正作業を必要とする状態。
14 図表の体裁（タイトル・単位・形式）は整っているか	○			図、表の体裁（タイトル、単位、形式）が適切であり、論文全体を通じて統一されている。	図、表の体裁（タイトル、単位、形式）が統一されておらず、一部不適切な箇所が見られる。	図、表の体裁（タイトル、単位、形式）が適切でないため、「文学研究科修士論文内規」を熟読した上で修正が必要。
15 図表は本文の説明と適合しているか	○			図、表は本文の説明と適合しており、図、表が論理の展開に有益なものとして提示されている。	図、表と本文の説明が一致していない箇所がみられるため、本文の説明に合う図、表を提示するか、または本文の説明（図、表が示すデータの解釈等）を変更する必要がある。	図、表が本文の説明と一致していないため、どのような目的・意図をもって示された図、表なのか評価できない。
16 研究倫理上の問題はないか	○	○		研究対象者となる個人・組織等の匿名化や個人情報、引用や著作権の取り扱いが適切であり、研究倫理上の問題がない。	左記のいずれかにおいて、追加の記載が必要な箇所が見られる。	倫理上問題となる可能性があるため、ただちに指導教官のチェックを受ける必要がある。

文学研究科 博士論文審査基準

2020年度より下記の審査基準を用いて博士論文を審査する。

文学研究科博士論文審査基準（英語英米文化専攻・比較日本文化専攻/社会学専攻）

審査対象者：学籍番号 氏 名

論文題目：

項目別評価：

〔 評価基準／a：適切 b：不適切 x：非該当項目 〕

(1) 執筆要領との適合性	章立て等論文の体裁は整っており、執筆要領(注・文献も含めて)に適合しているか。また、論文予備審査を合格している、同程度の資格を有していること。	a	b	×
(2) 先行研究との関連性	当該分野の代表的な先行研究を十分に把握した上で、それと関連付けて論旨が展開されていること。	a	b	×
(3) 研究目的の適切性	研究目的は明確であり、文学/社会科学研究の先端的課題として位置づけられるか。	a	b	×
(4) 理念との関連付け	専攻や専門の理念との関連付けは明確であるか。	a	b	×
(5) 研究方法の適切性	研究目的に照らして研究方法は適切であるか。	a	b	×
(6) 使用概念・用語の適切性	使用されている概念・用語は適切であるか。	a	b	×
(7) 研究方法の手順・ 結果の明確さ	研究の方法・分析が適切で、結果は明確であるか。	a	b	×
(8) 論理の一貫性	論理の展開には一貫性があるか。	a	b	×
(9) 新規性	考察及び結論には新しい高度な知見が含まれているか。	a	b	×
(10) 表題の表現	表題は内容を適切に表現しているか。	a	b	×
(11) 要旨の適切性	要旨の内容は適切であるか。	a	b	×
(12) 表記の適切性	省略語・単位・数値等は正確に表記されているか。	a	b	×
(13) 文法の適切性	文法は正確で文章は適切に表現されているか。	a	b	×
(14) 図表の体裁	図表の体裁（タイトル・単位・形式）は整っているか。	a	b	×
(15) 図表と本文の適合性	図表は本文の説明と適合しているか。	a	b	×
(16) 研究倫理との関連性	研究倫理上の問題はないか。	a	b	×

所見（特記事項ある場合）：

審査結果（いずれかを○で囲む）

合 否 保留

審査年月日： 年 月 日 審査員氏名：

文学研究科 博士論文予備審査基準

2020年度より下記の審査基準を用いて博士論文を予備審査する。

文学研究科博士論文予備審査基準（英語英米文化専攻・比較日本文化専攻/社会学専攻）

審査対象者：学籍番号 氏 名

論文題目：

項目別評価：

〔 評価基準／a：適切 b：不適切 x：非該当項目 〕

(1) 執筆要領との適合性	章立て等論文の体裁は整っており、執筆要領(注・文献も含めて)に適合しているか。また、論文予備審査を合格している、同程度の資格を有していること。	a b x
(2) 先行研究との関連性	当該分野の代表的な先行研究を十分に把握した上で、それと関連付けて論旨が展開されていること。	a b x
(3) 研究目的の適切性	研究目的は明確であり、文学/社会科学研究の先端的課題として位置づけられるか。	a b x
(4) 理念との関連付け	専攻や専門の理念との関連付けは明確であるか。	a b x
(5) 研究方法の適切性	研究目的に照らして研究方法は適切であるか。	a b x
(6) 使用概念・用語の適切性	使用されている概念・用語は適切であるか。	a b x
(7) 研究方法の手順・ 結果の明確さ	研究の方法・分析が適切で、結果は明確であるか。	a b x
(8) 論理の一貫性	論理の展開には一貫性があるか。	a b x
(9) 新規性	考察及び結論には新しい高度な知見が含まれているか。	a b x
(10) 表題の表現	表題は内容を適切に表現しているか。	a b x
(11) 要旨の適切性	要旨の内容は適切であるか。	a b x
(12) 表記の適切性	省略語・単位・数値等は正確に表記されているか。	a b x
(13) 文法の適切性	文法は正確で文章は適切に表現されているか。	a b x
(14) 図表の体裁	図表の体裁（タイトル・単位・形式）は整っているか。	a b x
(15) 図表と本文の適合性	図表は本文の説明と適合しているか。	a b x
(16) 研究倫理との関連性	研究倫理上の問題はないか。	a b x

所見（特記事項ある場合）：

予備審査結果

- A 無修正で合の評価
- B 修正後、合の評価
- C 修正後再査読が必要
- D 否

予備審査年月日： 年 月 日 審査員氏名：